



校長室 だより

平成28年5月2日
尼崎市立常陽中学校
校長 小谷 豪郎 No.2

熊本地震

新年度になり、3学年の生徒が全員揃った最初の朝礼でもお話ししました、熊本の地震ですが、まだまだ余震が続いているようです。2週間たった4月末で体を感じる余震が、1000回を超えているという事です。

そんな中、感動のニュースがありました。すでに知っている人もいるかも知れませんが、避難所に避難している子どもたちが自主的に、避難所でボランティアとして活躍しているというニュースです。



自分自身が被災して辛い生活を送っているのに、避難先が自分たちの中学校だったこともあり、トイレが汚れて大変だということから自ら進んでトイレ掃除に取り組んでいる姿や、全国から避難所に救援物資が届くのは良いのですが、人手が無く仕分けができない、ということからそれを手伝っている姿でした。

地震に遭い自分の命を守る、家族の命を守ることは当たり前です。そんな中、他人への思いやり、支え支えられていることを忘れずに、進んでこのような行動がとれる素晴らしい小中高生がたくさんいたことに感動するとともに、常陽中学校の生徒も校訓にもあるような「自立する力、豊かな心、温かな人」に成長して行ってほしいと改めて思いました。

3年生の皆さんにとっては、中学校生活の最大の思い出づくりである修学旅行が、今回の地震の影響で9月に延期になりましたが、朝礼で話した、『今あるあたりまえの日常に感謝』し、被災地の早い復興を願い、みんなでエールを送りましょう。



九州新幹線や九州自動車道の復旧が、阪神大震災の時のことを考えると、予想よりも驚くほど早く、被災地の皆さんにも明るい話題になっているでしょう。

活躍する生徒会

新入生は、新しい環境のなかで小学校との違いに戸惑いと緊張の毎日を過ごしていたのではないかと思います。そんななか、入学式の翌日に生徒会主催の対面式があり、新入生を2・3年生の素晴らしい学年合唱で暖かく迎えることができました。



先輩たちの素晴らしい歌声を聞いて、2学期の合唱コンクールでは、1年生も素晴らしい取組をしてくれることでしょう。



さらに生徒会は、今回の熊本地震への支援として募金活動を始めました。

日頃は、ペットボトルのキャップ集めなどもしていますが、今回はまず、登校時に校内での募金活動を初めました。さらに、休日に阪急武庫之荘駅前一般の方を対象とした募金活動にも取り組みました。常陽中学校の全校生徒の代表として堂々とした姿で取り組んでくれました



1年生・集団行動訓練



1年生が中学校で初めての行事に取り組みました。学年のスタート時に中学生としての意識を高め自覚と責任を持った行動ができるように、西武庫公園へ集団行動訓練に出かけました。



往復の行程ではおしゃべりをせず整然と2列で行進し、公園では仲間との楽しいお弁当の時間もありました。そして始めてクラスの仲間と心をつなげて取り組まなくてはならない、大縄飛びに挑戦しました。



ここで学んだことを26日からの宿泊学習で活かし、素晴らしい学年集団へと成長して行って下さい。

今年度の取組・紹介

- 1 夏休みが短縮されます**
本年度、祝祭日等の関係から例年より授業日数が少なくなります。学力向上等の観点からも尼崎市立全中学校が夏休みを3日間短縮し、8月29日に2学期の始業式を行います。
- 2 新学習システム**
【英語】1年生は、毎時間2人の先生で同室複数授業
2年生は、学級を2分割した少人数授業
【数学】1年生・3年生は、学級を2分割した少人数授業
- 3 常陽チャレンジスクール（土曜の午前・火曜の放課後）**
中学生として自覚を持ち、自学自習の習慣を身につけ家庭学習を充実させ、学力向上につなげることを目的とし、市内全中学校で取り組んでいます。
1回2時間で年間約50回実施、教員資格を持った指導員や大学生などの補助員が、学習支援します。学校の授業や塾のように先生が教えるのではなく、あくまでも自学自習です。つまずいたり、悩んだりした時に指導員や補助員が手助けしてくれます。
- 4 英語学習「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」**
文部科学省の、中学生の50%が英検3級以上を取得という目標値に近づけるよう、希望者対象で英検を受ける取組と、夏休みに2泊3日の英会話合宿を市教委が実施します。
- 5 進路関係及び学力調査等**
平成28年4月19日 全国学力・学習状況調査（実施済み）
平成28年6月2日・11月4日 中学校3年生学力調査
平成28年6月25日 尼崎市公立高等学校合同説明会
平成29年1月27日 尼崎市学習到達度調査（2年生）



《今月の言葉》

『 負けたことに、負けるな 』

負けたことは過去のこと、いつまでも引きずるな
負けたことは自分への試練、新たな挑戦へのスタート
負けたことは自分の弱点発見、弱点を克服して
さらに高みを目指すチャンスである